

§ 16 評価とリストの確認

●セッションの目標 (参加者はこのセッション終了時に次のことが達成できる。)

1. 「指導者のためのスカウト・キャンプ」 P.89-94 を、理解する。(12- ①)
2. 研究会終了直前に、再度個人装備等の点検を行い、それぞれについて使用の有無、頻度、必要な数、装備の過不足等について各自でチェックする。→使用頻度について確認し、リストを修正する。(13- ①)

●指導上のねらい・ポイント

1. 何のために「評価」をするか、評価は「評価のためにする」のではなく、次回への改善の指針とするために行うことを理解させる。
2. §3 でリストアップした個人装備に対し、ここでは、「必ず使用するもの」「あると便利で役立つもの」「使うかもしれないもの」「使わないもの」の 4 区分を設けて上記のそれぞれの項目に分けてチェックを付けさせます。(3-2- ①)

●セッション展開にあたっての留意点

1. 「

●準備品 ・名称〈規格〉(数量)

- ・書籍 「指導者のためのスカウトキャンプ」
- ・ §3 で提出 (もしくは各自が保管) した個人装備リスト

●他のスタッフへの依頼事項

【他の講師に】

【業務・奉仕スタッフに】

●セッション構成と展開 (時間配分)

- 講義 (25 分) →実習 (0 分) →まとめ (5 分)

《導入》(5 分)

1. 「

《展開》(50 分)

1. 何のために「評価」をするか、評価は「評価のためにする」のではなく、次回への改善の指針とするために行うことを理解させる。

① PDS 【Plan (計画) → Do (実行) → See (反省・評価)】

PDCA 【Plan (計画) → Do (実行) → Check (評価) → Act (改善)】

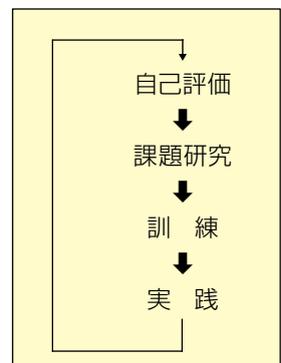
の 4 段階を繰り返すことによって、プログラム活動を継続的に改善し、レベルアップを図ると同時に、自己の実践能力として定着させる。

②スカウトキャンプ成功の鍵は、周到な計画とそれに基づく実施、その後の評価が科学的に、また、具体的に進められることである。(以上「指導者のためのスカウトキャンプ」 P.89)

○評価は単に結果の反省ではない、成功した原因、失敗した原因、さらに成果を上げるために考えること等、多角的に分析してみることが大切。

○また、評価は、効果を測定する上で重要であるばかりでなく、次の段階に進むための資料であり、特に指導者の反省材料となる。

○特に夏季キャンプの評価は、それまでの 1 年間の活動の成果そのものである。



- ③一つ一つの評価は、「知る」レベルから、さら「理解する」へのステップアップに繋がる。  
そして、それがもっと高いレベルでのキャンプ・技能・ノウハウの獲得に繋がるだけでなく、エキスパートとして必要な「根拠や背景」までの理解に繋げていく。私たちのこのスカウティングは、キャンプのエキスパートを育成するためのものではないが、スカウトの育成のための教育効果を求めて、キャンプに取り組んだ結果として、それがエキスパート育成に繋がっていく。
- ④そして、それをキャンプだけでなく、自己の学習(子ども時立てだけでなく、一生の学習)に適用することで、より豊かな人生に繋げていくこと。指導者としては、そこまでを見据えて、この「評価」を捉えていただきたい。

## 2.「§3」でリストアップした個人装備に対し、ここでは、「必ず使用するもの」「あると便利で役立つもの」「使うかもしれないもの」の3区分を設けて上記のそれぞれの項目に分けてチェックを付けさせる。(3-2-①)

- ① §3の指導上の注意点には、次の3つがあった。
- 「ソロキャンプ」→「班キャンプ」→「隊キャンプ」の順で、持って行く個人装備は減り、班装備・隊装備として分散化されることを知る。
  - 1泊ではなくても我慢してしまうが、長期キャンプとなると生死にかかわるものもあることを知る。
  - 持って行くものの種類は、1泊だろうが5泊だろうがほとんど変わらない。衣服や食糧が増えるだけである。
  - 「何を持って行くか」ではなく「何を持って行かないか」について、実際に検証してみる。
- ②ということで、ここでは、この1泊2日の研修にあたって、各自が持参した個人装備の使用の有無や頻度について、§3で作成したリストをもとに検証していく。区分は4つ。
- 必ず使用するもの：◎・・・実際に使ったもの。キャンプに欠かせないもの。
  - あると便利で役立つもの：○・・・実際には使わなかったが、別なシーンでは使ったであろうもの。  
持ってこなかったが、あったら実際に使っていたもの。
  - 使うかもしれないもの：△・・・実際には使わなかったが、別なシーンでは使うかもしれないもの。
  - 使わないもの：×・・・持ってくることはなかったもの。
- 個人作業とする。  
・自分自身のリストに、先の4区分の記号を記入し、また、持ってこなかったが必要だった装備品があれば、それを加筆させる。
- 全員で検証する  
・ここでの作業結果は、あくまで個人の今後のキャンプ運営の参考となるものである・・・が、まだまだ経験が足りないことも考慮して、リストへの記入作業が終わったら、リストに掲載されている1つ1つの装備品について、◎○△×それぞれを挙手によって検証していく。(担当者のコメントを必ず付けて、それも含めて持って行くかどうかの指標とする。)

### 《まとめ》(5分)

1.

### ●備考